

沖縄海区漁業調整委員会指示21第3号

沖縄海区におけるソデイカの採捕及びそれを目的とする漁業について、漁業法（昭和24年法律第267号）第67条第1項の規定に基づき、次のとおり指示する。

平成21年9月29日

沖縄海区漁業調整委員会
会長 桃 原 仁 一

（定義）

第1 この指示における語句の定義は次のとおりとする。

- (1) 「ソデイカ」とは、ツツイカ目ソデイカ科のソデイカをいう。
- (2) 「ソデイカはえ縄漁業」とは、垂直に立てた道糸に擬餌針等をつけ、それを幹縄で多数連結して、浮きによって海面からつるし、ソデイカを採捕する漁業をいう。
- (3) 「ソデイカ旗流し漁業」とは、垂直に立てた道糸に擬餌針等をつけ、それを旗等標識をつけた浮きによって海面からつるしたものを1単位として流し、ソデイカを採捕する漁業をいう。

（採捕禁止期間）

第2 沖縄海区において、毎年7月1日から10月31日までの間、ソデイカを採捕してはならない。ただし、試験研究機関による研究目的の採捕について、沖縄海区漁業調整委員会（以下「委員会」という。）が特に認めた場合は、この限りでない。

（ソデイカはえ縄漁業の操業の承認）

第3 ソデイカはえ縄漁業を操業しようとする者は、使用する漁船を示して、平成21年10月15日までに、ソデイカはえ縄漁業承認申請書（第1号様式）を委員会に提出し、承認を受けなければならない。

（承認の対象者）

第4 第3の承認の対象となる者は、次の各号のいずれかに該当するものとする。

- (1) 平成18年に委員会の承認を受けた者で、漁期（前年の11月1日からその翌年の6月30日までをいう。以下同じ。）の間において、ソデイカはえ縄漁業の操業実績を有するもの
- (2) 病気療養又は漁船使用不可等の理由により漁期の間において、ソデイカはえ縄漁業の操業ができなかった者で、平成18年に委員会の承認を受けていたもの
- (3) ソデイカ資源の保護培養及び漁業秩序の維持のため、特に必要と認められる者

（操業を承認しない場合）

第5 委員会は、次の各号のいずれかに該当する場合は、操業の承認をしない。

- (1) 操業の承認を受けた者（以下「承認を受けた者」という。）以外の者が、実質上当該漁業の経営を支配するおそれがあると認められる場合
- (2) 漁業に関する法令又はこの指示を遵守する精神を著しく欠く者であると認められる場合
- (3) 同一の漁業者が2隻以上申請した場合

（操業海域及び漁具の制限）

第6 ソデイカはえ縄漁業の操業海域及び使用する漁具を次のように制限する。

- (1) 最大高潮時海岸線から50海里以内の海域で操業してはならない。
- (2) 操業で使用する擬餌針の数は、1漁船につき350針以内とする。

（ソデイカはえ縄漁業者による自主規制の遵守）

第7 ソデイカはえ縄漁業を行う者は、宮古海域又は八重山海域において操業する際は、当該海域を操業海域とする漁業協同組合が定める自主規制を遵守しなければならない。

（承認証の漁船への備付け義務）

第8 承認を受けた者は、ソデイカはえ縄漁業を操業する場合は、委員会が交付した承認証を当該承認に係る漁船内に備え付けなければならない。

(承認旗章の掲揚)

第9 承認を受けた者は、ソデイカはえ縄漁業の操業中は、承認旗章（第2号様式）を船舷1メートル以上の高さに掲げなければならない。

(承認の承継)

第10 操業の承認の承継は、次の各号のいずれにも該当する場合に限り認めることができる。

- (1) 承認を受けた者が死亡し、又は廃業したときに、当該漁業を操業する者（承認を受けた者の親族に限る。）が承継する場合
- (2) 承継による申請が、承認を受けた者が死亡し、又は廃業した日から2年以内に行われた場合

(承認内容の変更)

第11 承認を受けた者が承認の内容を変更しようとするときは、あらかじめソデイカはえ縄漁業承認内容変更申請書（第3号様式）を委員会に提出し、承認を得なければならない。

(承認証の再交付)

第12 承認を受けた者が承認証を亡失し、又は棄損したときは、遅滞なくソデイカはえ縄漁業操業承認証再交付申請書（第4号様式）を委員会に提出しなければならない。

(承認証の交付)

第13 委員会は、第3若しくは第11の規定によりソデイカの採捕の承認をしたとき、又は第12の規定により申請があったときは、その申請者にソデイカはえ縄漁業操業承認証（第5号様式）を交付する。

(廃業届の提出)

第14 承認を受けた者がソデイカはえ縄漁業を廃止したときは、ソデイカはえ縄漁業廃業届（第6号様式）にソデイカはえ縄漁業操業承認証を添付して、委員会に提出しなければならない。

(操業実績の報告義務)

第15 承認を受けた者は、毎年漁期毎にソデイカはえ縄漁業操業報告書（第7号様式）を同年8月末日までに、委員会へ提出しなければならない。

(制限又は条件の変更、承認の取消し又は採捕の停止)

第16 委員会は、ソデイカ資源の保護培養及び漁業秩序の維持のため必要があると認めるとき、又は第3の承認を受けた者がこの指示を遵守しないときは、ソデイカはえ縄漁業操業承認証の制限又は条件を変更し、承認を取り消し、又は採捕を停止させることができる。

(ソデイカ旗流し漁業の操業海域及び漁具の制限)

第17 ソデイカ旗流し漁業の操業海域及び使用する漁具を次のように制限する。

- (1) 最大高潮時海岸線から50海里以内の海域で操業することを目的とする場合、使用する漁船に搭載する旗の数は、操業時の旗の亡失に対する予備数を含め、1漁船につき30本以内とし、使用する旗の数も同数以下とする。
- (2) 最大高潮時海岸線から50海里を超える海域で操業することを目的とする場合、使用する漁船に搭載する旗の数は、操業時の旗の亡失に対する予備数を含め、1漁船につき50本以内とし、使用する旗の数も同数以下とする。

(ソデイカ旗流し漁業者による自主規制の遵守)

第18 ソデイカ旗流し漁業を行う者は、宮古海域又は八重山海域において操業する際は、当該海域を操業海域とする漁業協同組合が定める自主規制を遵守しなければならない。

(指示の有効期間)

第19 この指示の有効期間は、平成21年10月1日から平成22年9月30日までとする。